



潮かけ祭り

和具大島
(志摩市)

旧暦の6月1日

潮かけ祭りは、海の安全の神である市杵島姫命いちきしまりのみことが、普段まつられている和具の八雲神社から、和具大島の別宮・大島神社への里帰りを祝う祭です。鎌倉時代初期から続くといわれています。

祭のはじまりは、万度船が伊勢神宮から授かった「万度札」まんどふだを大島にある大島神社に遷し、海女や漁師たちが、当日の朝にとったアワビやサザエ、カツオなどをお供えして、海の安全と大漁を祈願します。参拝が終わると、神主や祭主は万度船に乗船し、陸に向かって出発します。その後、バケツやひしゃく、現在ではホースなども使って、船同士が海水をかけあうことから「潮かけ祭り」と呼ばれるようになりました。万度船へ最初に潮をかけた船は、大漁に恵まれるという言い伝えがあります。

志摩町布施田中の浜から、漁師と海女の代表が一隻の船に乗り、小島神社の祠にアワビを供えてお参りします。毎年、旧暦の6月4日に行われる海上安全と大漁を祈願する神事です。

小島まつり

布施田
(志摩市)

旧暦の6月4日



御供上げ

神島
(鳥羽市)
6月11日

鳥羽市の神島で6月11日に行われる島の海女の口明け(操業開始)の神事。磯に御供物をあげ、その年の大漁と操業安全を願います。

鳥羽市国崎町の「神の浜」で行われる、伊勢神宮へ奉納するアワビを採る神事です。旧暦6月1日に国崎の御潜の浜に近隣の全海女が集まって初潜りをし、とったアワビを伊勢神宮にお供えして、その年の大漁と海上安全を祈念しました。明治4年11月の御み賛献進制度の廃止により、ノシアワビの奉納だけを残して、この御潜神事は途絶えました。

平成15年に132年ぶりに復活。国崎、答志、答志和具、菅島、浦村、石鏡、相差、安乗、神島の海女が集まり、海士潜女神社の宮司が古式にのっとり神事を行った後、3回にわたり潜り、とったアワビが奉納されました。

御潜神事

国崎
(鳥羽市)

旧暦の6月1日

